

御挨拶

国際交流推進室ニュース第 18 号をお届けします。本年の夏は、色々な意味で特別な夏でした。信州といえども連日、災害級の暑さに襲われました。また、台風の上陸数も多く、中には珍しい経路を通るものもあって各地で大きな被害が報道されました。国際交流推進室ニュースをご覧いただいている方の中にも災害に直面された方がおられるのではないかと思います。心よりお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復興をお祈り申し上げます。さて、日本では「平成」の元号で過ごす最後の夏であるということもニュース等で話題となりました。来年は、大きな節目を迎えます。日頃から多くのご支援をいただいている皆様をはじめ、信州大学や繊維学部と協定関係にある機関の皆様、留学生の皆様にとって、素晴らしい年になりますことをお祈りしています。本年も皆様には多くのご厚情とご支援を賜りました。心より御礼を申し上げますとともに、来年も引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

学内行事

[Textile Summit 2018]

信州大学繊維学部において「テキスタイルサミット 2018」が開催されました。

テキスタイルサミットは繊維系 7 大学による国際会議であり、繊維系の学部・専攻を有する信州大学、福井大学、京都工芸繊維大学、ノースカロライナ州立大学、マンチェスター大学、リーズ大学、香港理工大学の 7 大学間で昨年調印されたグローバルパートナーシップ協定に基づくものです。総勢約 100 名の参加者が期間中、研究発表・討論を行い、また学生によるポスター発表も行われました。2 日目の夕方にマルベリーホールで行われたバンケットでは、真田陣太鼓の演奏があり、ゲストの方々にはにぎやかな信州での時間を過ごされました。次回は 2～3 年後に英国で開催の予定です。



講堂での集合写真

[留学報告会]

2018 年 10 月 24 日に、繊維学部主催の海外留学報告会を開催しました。今年、大学間・学部間の交換留学から帰国した 5 名の学生さんに、それぞれの留学について報告してもらいました。留学先は、米国、フランス、ベルギー、イタリア、チェコの協定校です。みなさん、留学中は外国語での授業や、価値観が違う学生さんたちとの人間関係、現地語で行わなければならない生活上の手続きなど、戸惑ったり、落ち込んだり、時に泣くほど悔しかったりと、楽しいばかりでなく大変な思いをしたことも多々あったようですが、それでも、留学しなければ決して得られなかった経験や、貴重な出会い、自分自身の成長などがあり、口々に「ぜひ、留学してほしい」、「なんとかなる」、「困っていても必ず助けてくれる人が現れる」と、留学を考えている学生さんたちを勇気付ける多くの言葉を残してくれました。また、今回は留学報告会の後に発表学生と参加学生の有志で交流会を開催し、大いに盛り上がったそうです。

日中韓シンポジウム

2018 年 8 月、日中韓学生シンポジウムが中国の蘇州大学で開催されました。繊維学部からは 14 名(学部 2 名、修士課程 9 名、博士課程 3 名)の学生が参加しました。

本シンポジウムには約 150 人の学生が参加し、参加大学の先生方による特別講演や学生の口頭発表およびポスター発表が行われました。表彰式では、Kim Suk Joo さん(総合理工学研究科繊維学専攻)が「優秀ポスター発表賞」また Phan Duy Nam さん(生命機能・ファイバー工学専攻)が「優秀オーラル発表賞」を受賞しました。



受賞者による記念撮影

訪問

[中国浙江理工大学一行 10 名が来訪(JST さくらサイエンスプラン)]

昨年に引き続き、今年も国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)のさくらサイエンスプランに繊維学部が採択され、8月22日～8月28日の7日間、協定校の浙江理工大学(中国)から学生・教員合わせて10名が来訪しました。一行は一週間の滞在中、下坂学部長表敬訪問、小諸市のYUWA株式会社の見学、繊維学部の学生との懇親会への参加、世界遺産の富岡製糸場(群馬県)の見学など、充実した毎日を送りました。来訪した学生たちは、日本人が親切であること、街や工場などが清潔であることなどに感銘を受け、将来は繊維学部で留学したいという学生もいました。

留学生の声：関暁宇さん

2016年10月に入学し、信州大学の博士課程総合工学系研究科に在学している関暁宇(カン ギョウウ)と申します。中国で修士課程を学んでいる際、日本語を自分で勉強している間に、日本の文化や科学技術に非常に興味を持つようになりました。そして、修士課程を卒業後、日本に留学し、自分の研究分野に関連する知識を学び続けることにしました。日本に来て最初のときは日本語があまり上手くなかったのですが、生活の面ではちょっと不便なところがありました。しかし、学校の日本語補講の授業やクラスメートとの交流を通じて、日本での生活に徐々に慣れてきたと同時に、日本人の優しさをしみじみと感ずることができました。これまでの2年間の留学では、専門知識の向上や研究レ



「上田城の紅葉」(関さん撮影)

ベルの向上だけでなく、日常生活の中で日本文化に触れ、食事やファッションの新しい知識を得ました。長野の自然の風景もとてもきれいです。私の趣味は撮影と旅行で、よく長野県のいろいろな場所へ行きます。それによって得たものも多いです。日本での経験は私を大きく成長させました。研究の面でも生活の面でも日本の新しい面を知ることが出来ました。

繊維学部留学生の動向

2018年9月25日に秋季の学位授与式が開催され、2名の博士課程学生を送り出しました。また10月には1名の博士課程学生、1名の修士課程学生、10名の研究生が入学しました。これで11月現在の繊維学部(修士課程、博士課程含む)の留学生総数は83名となりました。

繊維学部への留学状況(課程と出身国)

博士課程	31	中国	43
修士課程	24	マレーシア	4
学部	15	韓国	5
研究生等	13	ベトナム	10
計	83	インドネシア	2
		パキスタン	6
		モンゴル	2
		フランス	2
		タイ	2
		ドイツ	1
		モロッコ	2
		台湾	2
		イラン	1
		ブラジル	1
		計	83

国際交流推進室 室員紹介

平林公男(室長、応用生物科学科)
金 翼水(副室長、機能機械学コース)
小林俊一(副室長、バイオエンジニアリングコース)
鮑 カ民(機能機械学コース)
ハニウツマイケル(感性工学コース)
平田雄一(応用分子化学コース)
金井博幸(先進繊維工学コース)
福長 博(ファイバー材料工学コース)
若月 薫(機能機械学コース)
金 晃屋(感性工学コース)

本ニュースへの意見、要望などありましたら、国際交流推進室メールアドレス(fkokusai@shinshu-u.ac.jp)へお寄せください。

◆国際交流推進室ホームページ◆

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/exchange/>